呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語表現法
科目基礎情報					
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	_一般科目		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『テスト式国語常識の総演習』(京都書房)、『国語表現準拠学習ノート』(京都書房)				
担当教員	板倉 大貴				
到達目標					
1. 漢字・仮名遣いなどが正しく使えること。 2. さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけること 3. 文章の組み立て、すなわち構成能力を身につける。 4. 実用的な文章を正しく書けるようにすること。 5. 文章の展開や、スピーチのこつを身につけること。 6. 社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書けるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることが適切にできる		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることができる		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることができない
評価項目2	実用的な文章を正しく書くことが適切にできる		実用的な文章を正しく書くことができる		実用的な文章を正しく書くことができない
評価項目3	社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことが適切にできる		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことができる		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことができない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語を読む、書く、聞く、話すという四つの能力を身につけることは、人間力の形成のために必要である。それらの基礎能力、とりわけ語彙能力と文章表現能力の向上を目指すことを目的とする。				
授業の進め方・方法	講義・問題演習を基本とする。適宜課題提出も課す。				
注意点	積極的な授業参加、普段の課題内容を重視する。授業で進める範囲の半分は宿題とし、毎週テキストを回収して評価する				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、「国語常識の総演習」第1、2回	1. 「国語常識の総演習」の演習 漢字を読む力、書く力、語彙力、文章表現・韻文・文学史、文法 といった、国語表現に必要な基礎学力を体得する。	
		2週	「国語常識の総演習」第3、4回		
		3週	「国語常識の総演習」第5、6回		
		4週	「国語常識の総演習」第7、8回		
		5週	「国語常識の総演習」第9、10回		
		6週	「国語常識の総演習」第11、12回		
		7週	中間試験		
	8週	「国語表現 準拠学習ノート」I-1,2	2. 「国語表現準拠学習ノート」の演習 仮名遣い、敬語、悪文の推敲、類義語や慣用句、文章構成の基 文章を書く手順といった、表現の基本となる事項を体得する。		
	4thQ	9週	「国語表現 準拠学習ノート」I-3,4		
		10週	「国語表現 準拠学習ノート」I-5,6		
		11週	「国語表現 準拠学習ノート」I-7,8		
		12週	「国語表現 準拠学習ノート」II-5,6	3. 意見文、通信文、小論文の作成 「国語表現 準拠学習ノート」の「表現の実践」を参照しながら、 「ステージ2, 3」に相当する。意見文、通信文、小論文を作成する。 できれば「ステージ4」の設問にも取り組みたい。	
		13週	「国語表現 準拠学習ノート」II-10		
		14週	志望理由書・自己PR書		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	2	後1,後8,後12

			他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想・思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	2	後1,後8,後12
			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	2	後1,後8,後12
			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	2	後1,後8,後12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	体育
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	_一般科目		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	なし				
担当教員	佐賀野 健				
到達目標					
1. 自分の体カレベルを把握できる。 2. テニスの基礎技能をゲームで生かすことができる。 3. テニスのゲームを企画・運営ができる。 4. バドミントンの基礎技能をゲームで生かすことができる。 5. バドミントン (ダブルス) の集団的技能をゲームで生かすことができる。 6. バドミントンのゲームを企画・運営ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分の体カレベルを適切に把握できる		自分の体カレベルを把握できる		自分の体カレベルを把握できない
評価項目2	テニスの技能をゲームで生かすことが適切にできる		テニスの技能をゲームで生かすことができる		テニスの技能をゲームで生かすことができない
評価項目3	バドミントンの技能をゲームで生かすことが適切にできる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。基本的な個人技能を高めるとともに、ダブルスゲームにおいてはパートナーの特徴を生かした連携パターンを工夫し、相手の動きや打球の特徴に対応して作戦を考える能力を養う。また、生涯にわたってスポーツを親しむという観点からテニス、バドミントンの特性や、効果的な練習方法、ゲームの企画・運営方法、審判法など理解させる。				
授業の進め方・方法	基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。				
注意点	学校指定の体操服及び体育館シューズを着用すること。体づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・新体カテスト	1. 新体カテスト 新体カテストの説明 各種目の測定 得点集計自己評価	
		2週	新体カテスト		
		3週	集団行動・体育祭または球技大会の種目	2. 体育祭または球技大会種目 体育祭または球技大会種目の練習	
		4週	テニス	3. テニス ルール・審判方法ゲーム方法の説明、班編成 基礎技能 (グラウンド・ストローク、ボレー、スマッシュ、ロビング、サービス、サーブプレッシュ) の修得 ダブルス・ゲーム	
		5週	テニス		
		6週	テニス		
		7週	テニス		
		8週	テニス・スキルテスト		
	2ndQ	9週	バドミントン	4. バドミントン ルール・審判方法・ゲーム方法の説明、班編成 基礎技能 (ハイクリア、ドロップ、ドライブ、スマッシュ、ヘアピン、フライトサービス、サーブプレッシュ) の修得 ダブルス・ゲーム	
		10週	バドミントン		
		11週	バドミントン		
		12週	バドミントン		
		13週	バドミントン		
		14週	バドミントン		
		15週	バドミントン・スキルテスト	5. 持久走 長距離走の練習	
		16週	バドミントン・スキルテスト		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2	前4,前9,後1,後3
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	2	前4,前9,後1,後3

			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	前4,前9,後1,後3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	上級コミュニケーション英語 A
科目基礎情報					
科目番号	0003	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	ヒロ前田『TOEICテスト究極の模試600問』(アルク), 一杉武史『キクタンTOEIC Test Score 500』(アルク)				
担当教員	畠村 憲貴				
到達目標					
1. リスニング演習によって、テキストで扱われるリスニング問題に対応できるようになること 2. リーディング演習によって、テキストで扱われるリーディング問題に対応できるようになること 3. 学習するTOEIC必須語彙を覚え、使えるようになること					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	テキストで扱われるリスニング問題に適切に対応できる	テキストで扱われるリスニング問題に対応できる	テキストで扱われるリスニング問題に対応できない		
評価項目2	テキストで扱われるリーディング問題に適切に対応できる	テキストで扱われるリーディング問題に対応できる	テキストで扱われるリーディング問題に対応できない		
評価項目3	学習するTOEIC必須語彙を覚え、適切に使うことができる	学習するTOEIC必須語彙を覚え、使うことができる	学習するTOEIC必須語彙を覚え、使うことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	実践的なTOEIC問題演習を通して、TOEICテストへの対応力を高めることを目的とする。また、ALC NetAcademy2を活用することによりリスニング・リーディング力の強化を目指す。本授業は就職と進学に関連し、コミュニケーション力を高めることができる。				
授業の進め方・方法	演習を基本とする。				
注意点	<p>授業にはテキスト・辞書を必ず持参すること。TOEICテストのスコアアップには基礎の定着が不可欠です。授業外でのトレーニングも怠らないように。授業では集中して演習に取り組み、質問等を積極的に行うよう期待する。</p> <p>【自学自習の実施内容と確認方法】(学修単位の場合は、1単位当たり15時間の授業と30時間の自学自習が必要です。)</p> <p>e-ラーニングの課題を出し、学習状況をシステム上で確認する。さらに、授業内容の自学自習状況をほぼ毎回の小テストで確認する。</p> <p>【カリキュラムの中での位置づけ】 1~3学年の英語関連科目で学んだ文法事項を定着させ、語彙力を高めて英語力を伸ばすための科目。</p> <p>【先行して理解する必要のある科目】 コミュニケーション英語I, II, 英語表現I, II 【同時に学ぶ科目】 英語(選択科目) 【ESDとの関連(教育目標)】 (ESD1)テキストの演習を通して、英語でのリスニング・リーディング能力を高めることで、他文化の考え方や価値観を理解する素養を身につける。</p> <p>【評価方法と基準】 JABEE合格基準: 60%以上 中間試験35%+期末試験35%+小テスト15%+課題15%=100%(100点) またはTOEICスコアによる評価(詳細資料は授業で配布) 60%以上を合格とする。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	概要説明		
		2週	TOEIC問題演習1	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		3週	TOEIC問題演習2	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		4週	TOEIC問題演習3	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		5週	TOEIC問題演習4	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		6週	TOEIC問題演習5	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	TOEIC問題演習6	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		10週	TOEIC問題演習7	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		11週	TOEIC問題演習8	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		12週	TOEIC問題演習9	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		13週	TOEIC問題演習10	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		14週	TOEIC問題演習11	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	

		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発声できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			英語の発音記号を見て、発音できる。	2	
			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
		高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14	
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	上級コミュニケーション英語 B
科目基礎情報					
科目番号	0004	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	ヒロ前田『TOEICテスト究極の模試600問』(アルク), 一杉武史『キクタンTOEIC Test Score 500』(アルク)				
担当教員	畠村 憲貴				
到達目標					
1. リスニング演習によって、テキストで扱われるリスニング問題に対応できるようになること 2. リーディング演習によって、テキストで扱われるリーディング問題に対応できるようになること 3. 学習するTOEIC必須語彙を覚え、使えるようになること					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	テキストで扱われるリスニング問題に適切に対応できる	テキストで扱われるリスニング問題に対応できる	テキストで扱われるリスニング問題に対応できない		
評価項目2	テキストで扱われるリーディング問題に適切に対応できる	テキストで扱われるリーディング問題に対応できる	テキストで扱われるリーディング問題に対応できない		
評価項目3	学習するTOEIC必須語彙を覚え、適切に使うことができる	学習するTOEIC必須語彙を覚え、使うことができる	学習するTOEIC必須語彙を覚え、使うことができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	実践的なTOEIC問題演習を通して、TOEICテストへの対応力を高めることを目的とする。また、ALC NetAcademy2を活用することによりリスニング・リーディング力の強化を目指す。本授業は就職と進学に関連し、コミュニケーション力を高めることができる。				
授業の進め方・方法	演習を基本とする。				
注意点	<p>授業にはテキスト・辞書を必ず持参すること。TOEICテストのスコアアップには基礎の定着が不可欠です。授業外でのトレーニングも怠らないように。授業では集中して演習に取り組み、質問等を積極的に行うよう期待する。</p> <p>【自学自習の実施内容と確認方法】(学修単位の場合は、1単位当たり15時間の授業と30時間の自学自習が必要です。)</p> <p>e-ラーニングの課題を出し、学習状況をシステム上で確認する。さらに、授業内容の自学自習状況をほぼ毎回の小テストで確認する。</p> <p>【カリキュラムの中での位置づけ】 1~3学年の英語関連科目で学んだ文法事項を定着させ、語彙力を高めて英語力を伸ばすための科目。</p> <p>【先行して理解する必要のある科目】 コミュニケーション英語I, II, 英語表現I, II 【同時に学ぶ科目】 英語(選択科目) 【ESDとの関連(教育目標)】 (ESD1)テキストの演習を通して、英語でのリスニング・リーディング能力を高めることで、他文化の考え方や価値観を理解する素養を身につける。</p> <p>【評価方法と基準】 JABEE合格基準: 60%以上 中間試験35%+期末試験35%+小テスト15%+課題15%=100%(100点) またはTOEICスコアによる評価(詳細資料は授業で配布) 60%以上を合格とする。</p>				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	概要説明		
		2週	TOEIC問題演習1	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		3週	TOEIC問題演習2	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		4週	TOEIC問題演習3	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		5週	TOEIC問題演習4	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		6週	TOEIC問題演習5	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	4thQ	9週	TOEIC問題演習6	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		10週	TOEIC問題演習7	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		11週	TOEIC問題演習8	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		12週	TOEIC問題演習9	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		13週	TOEIC問題演習10	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	
		14週	TOEIC問題演習11	リスニング・リーディング問題解法の習得 TOEIC必須語彙の習得	

	15週	期末試験	
	16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発音できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			英語の発音記号を見て、発音できる。	2		
			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
		高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14		
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14	
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2		
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2		
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握に必要な情報を読み取ることができる。	2		
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2		
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	

			毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	後2,後3,後4,後5,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	
			毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	
			自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0005		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	行時 潔『はじめての英会話 Let's Talk It Up!』 (松柏社)				
担当教員	上杉 裕子				
到達目標					
1. 自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができるようになること 2. 様々な場面に応じた英語表現を習得し、実際の英会話に応用できるようになること 3. 海外の学生と、コンピューターを介した音声通話 (スカイプ) による異文化交流、相互に言語を教え合うタンデム教育ができること					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	自分の考えや気持ちを、相手に伝えることが適切にできる		自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができる		自分の考えや気持ちを、相手に伝えることができない
評価項目2	様々な場面に応じた英語表現を習得し、実際の英会話に応用できるようになること		様々な場面に応じた英語表現を習得し、実際の英会話ができる		様々な場面に応じた英語表現を習得し、実際の英会話に応用できない
評価項目3	海外の学生と、コンピューターを介した音声通話 (スカイプ) による異文化交流が適切にできる		海外の学生と、コンピューターを介した音声通話 (スカイプ) による異文化交流ができる		海外の学生と、コンピューターを介した音声通話 (スカイプ) による異文化交流ができない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	テキストで扱われる内容を通して、英会話の際に役立つ語彙や表現を学習し、海外の学生との会話に応用する。同時に、英語の聞き取り、会話、作文練習を行い、総合的な英語能力を養う。本授業は進学、就職、資格取得に関連し、コミュニケーション能力を高めることができる。また、海外の姉妹校とスカイプ交流授業を行い、実際に英語を使い、自国の文化を伝え、国際的な視野を拡げることができる。				
授業の進め方・方法	オールイングリッシュでCLL (Community Language Learning) のメソッドを用いた演習を基本とする。				
注意点	テキストだけではなく、辞書を必ず持参すること。オールイングリッシュで演習を基本とする授業なので、積極的にできるだけ多くの英語を用い、活動すること。また、海外の学生を相手にする交流授業も予定されているので、パートナーに失礼のないよう、常に緊張感を持って授業に臨むこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Introduction, Lesson 1	テキスト 1. Exercise A~C : CLLメソッドを用い、リスニング、スピーキング練習。 会話文を暗唱できるくらい何度も繰り返し練習することによって役立つ表現を身につける。 。発音やイントネーションをトレーニングする。 2. Exercise D : 実際に言いたいことを英語で表現する練習を行う 3. Exercise E~G : 英作文練習を行う 海外の学生との交流授業 1. スカイプ使用の準備をする 2. トピックが決められ、事前準備し、教員の指導のもと会話練習を行う 3. 英語と日本語両方で、画像付き音声交流を行う 4. スカイプ交流授業の後、会話内容を振り返り、感想シートに記入する。 ALC NetAcademy 2 (自学) 1. 「ライティング基礎コース」によるライティング演習	
		2週	Lesson 1		
		3週	Lesson 2		
		4週	Lesson 2		
		5週	Lesson 3		
		6週	Lesson 3		
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	Lesson 4		
		10週	Lesson 4		
		11週	Lesson 5		
		12週	Lesson 5		
		13週	Lesson 6		
		14週	Lesson 6		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	Lesson 7		

		2週	Lesson 7	
		3週	Lesson 8	
		4週	Lesson 8	
		5週	Lesson 9	
		6週	Lesson 9	
		7週	Lesson 10	
		8週	中間試験	
		4thQ	9週	答案返却・解答説明
	10週		Lesson 10	
	11週		Lesson 11	
	12週		Lesson 11	
	13週		Lesson 12	
	14週		Lesson 12	
	15週		学年末試験	
	16週		答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前1
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前1
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前1
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	前1
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	前1
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	前1

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ドイツ語
科目基礎情報					
科目番号	0006	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	齊藤公輔『どいちゅ』朝日出版社、2016年				
担当教員	西谷 明子				
到達目標					
1. あいさつを覚える。 2. 自己紹介ができる。 3. 動詞の現在人称変化を覚える。 4. 冠詞類とその変化を覚える。 5. 辞書を使って簡単な会話文を読むことができる。 6. 冠詞類とその変化に慣れる。 7. 前置詞の使い方を覚える。 8. 助動詞、分離動詞の使い方を覚える 9. 簡単な日常会話ができる 10. 辞書を使って簡単な会話文を読み、作文することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	あいさつ、自己紹介が適切にできる	あいさつ、自己紹介ができる	あいさつ、自己紹介ができない		
評価項目2	動詞の現在人称変化などを覚えることが適切にできる。	動詞の現在人称変化などを覚えることができる。	動詞の現在人称変化などを覚えることができない。		
評価項目3	辞書を使って簡単な会話文を読み、作文することが適切にできる	辞書を使って簡単な会話文を読み、作文することができる	辞書を使って簡単な会話文を読み、作文することができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	初めてドイツ語を学ぶ学生を対象とする。初級ドイツ語文法と簡単な日常会話を習得する。また、ドイツあるいは歴史についても理解を深める。				
授業の進め方・方法	教科書及び付属のCDを用いた講義。				
注意点	授業には毎回必ず辞書を持参すること。授業中でも授業後でも、質問があれば受け付けます。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	アルファベット つづりと発音	ドイツ語のアルファベットの読み方、あいさつ	
		2週	Lektion 1	A. Im Klassenzimmer、曜日	
		3週	Lektion1	B. Vorstellung、月	
		4週	Lektion1	動詞の人称変化の復習、数詞0～10	
		5週	Lektion 1	C. Auf dem Campus、数詞11～20	
		6週	Lektion 1	名詞の性、冠詞の復習	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	Lektion 1	D. Tandempartner	
		10週	Lektion 1	不規則動詞の人称変化、数詞20～	
		11週	Lektion 1	E. In der Mensa	
		12週	Lektion 1	定冠詞と不定冠詞の1・4格、疑問表現	
		13週	Lektion 1	所有冠詞、否定冠詞	
		14週	Lektion 1	まとめ	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	前期の復習	動詞の現在人称変化と冠詞の変化を中心に	
		2週	Lektion 2	A. In der Stadtmitte	
		3週	Lektion 2	B. Apotheke	
		4週	Lektion 2	C. In einem Laden	
		5週	Lektion 2	名詞の複数形、人称代名詞の格変化	
		6週	Lektion 2	D. Boutique	
		7週	Lektion 2	E. Teepause	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答説明		
		10週	Lektion 2	F. Geschenk zum Geburtstag	
		11週	Lektion 2	助動詞、前置詞+3格	
		12週	Lektion 3	A. Zum Kaffee einladen	
		13週	Lektion 3	分離動詞、位置を表す前置詞	
		14週	Lektion 3	B. Coffe Baum	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前1,前2

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	中国語
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	李志華・文南「友子の北京ライフ」(白帝社)				
担当教員	范叔如, 劉鳴				
到達目標					
1. 中国語の発音システムを系統的に身につけさせる 2. 中国の地理, 社会, 文化について理解させる 3. 一般の挨拶と自己紹介また, 少しの基礎文型を身につけさせる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	中国語の発音システムを系統的に理解できる。		中国語の発音システムを理解できる。		中国語の発音システムを理解できない
評価項目2	中国の地理, 社会, 文化について適切に理解できる		中国の地理, 社会, 文化について理解できる		中国の地理, 社会, 文化について理解できない
評価項目3	一般の挨拶と自己紹介また, 少しの基礎文型を適切に理解できる		一般の挨拶と自己紹介また, 少しの基礎文型を理解できる		一般の挨拶と自己紹介また, 少しの基礎文型を理解できない
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	将来の中国語の勉強と国際理解に必要な中国語の発音と挨拶を学生に身につけさせる				
授業の進め方・方法	発音方法、文型模倣練習法、模倣記憶返復法などを必要に合わせて応用する。				
注意点	試験前にまとめて勉強するのではなく、普段の授業を大切に、しっかり知識の基盤を築くことを期待する。				
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第1課		学習の概略説明と中国語についての簡単な説明
		2週	第1-①②課		声調・基本母音
		3週	第1-③課		複母音
		4週	第2-④課		子音①無気音と有気音
		5週	第2-④課		子音②そり舌音
		6週	復習		
		7週	中間試験		
		8週	第3-⑤課		鼻音を伴う母音
	2ndQ	9週	第3-⑥⑦⑧⑨課		変調とアル化/声調の組み合わせ/簡単な挨拶表現
		10週	第4課		人称代名詞/動詞述語文と形容詞述語文
		11週	第4課		「聞く、書く、話す」と本文
		12週	第5課		指示代名詞/疑問詞疑問文と反復疑問文
		13週	第5課		「存在」を表す“在”/「聞く、書く、話す」と本文
		14週	復習		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	第6課		量詞と「存在」を表す“有”
		2週	第6課		連動式文
		3週	第6課		前置詞“在”
		4週	第6課		「聞く、書く、話す」と本文
		5週	第7課		進行を表す“在”と完了を表す“了”
		6週	復習		
		7週	中間試験		
		8週	第7課		「動作の時点」を表す語の位置
	4thQ	9週	第7課		時刻などの表現 / 「聞く、書く、話す」と本文
		10週	第8課		願望を表す“想”と前置詞“離”
		11週	第8課		連動式文②
		12週	第8課		「時間の量」を表す語の位置
		13週	第8課		「聞く、書く、話す」と本文
		14週	復習		
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前1
-------	------	---------------------------------	---------------------------------	--	---	----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ハングル
科目基礎情報					
科目番号	0008	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	4		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	朴大王・李賛任 (共著) 「韓国語入門」 白帝社				
担当教員	李 政樹				
到達目標					
1. 韓国語の文字が読める 2. 韓国語の文字が書ける 3. 簡単なフレーズを身につける 4. 動詞, 形容詞等の活用がある程度できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	韓国語の文字が読み書きが適切にできる	韓国語の文字が読み書きできる	韓国語の文字が読み書きできない		
評価項目2	動詞, 形容詞等の活用ができる	動詞, 形容詞等の活用がある程度できる	動詞, 形容詞等の活用ができない		
評価項目3	動詞, 形容詞等の活用ができる	動詞, 形容詞等の活用がある程度できる	動詞, 形容詞等の活用ができない		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	韓国語を初めて習う学習者を対象にする。二年間の学習でハングル能力検定試験 5級の合格程度の力をつける				
授業の進め方・方法	講義を基本とする				
注意点	欠席の場合は後日の授業に多大な支障が生じるため、欠席は絶対しないこと。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	第1課ハングル・母音, ポイント1~4	ハングルの仕組み, 語順, 基本母音	
		2週	第1課ハングル・母音, ポイント5	二重母音	
		3週	第2課子音, ポイント1	子音 (平音)	
		4週	第2課子音, ポイント2・3	子音 (激音, 濃音)	
		5週	第2課子音, ポイント4	子音のグループ	
		6週	第3課パッチム・連音化, ポイント1~3	パッチム, 連音化	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却, 解答説明, 復習		
	2ndQ	9週	第3課パッチム・連音化, ポイント4, 様々な単語	2つのパッチム, 単語を読む	
		10週	第4課発音・名前, ポイント1・2	有声音化, 発音規則	
		11週	第4課発音・名前, ポイント3~5	名前の書き方, 仮名のハングル表, カギャ表 (反切表)	
		12週	第5課文字まとめ, ポイント1・2	文字のまとめ, 「」体と「」体	
		13週	第5課文字まとめ, ポイント3・4	教室で使う表現, あいさつ	
		14週	復習		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却, 解答説明		
後期	3rdQ	1週	前学期の復習		
		2週	第6課名前は何かですか, ポイント1	名詞+です	
		3週	第6課名前は何かですか, ポイント2	助詞①~は, ~が	
		4週	第7課何がおいしいですか, ポイント1	「」体①~です, ~ます	
		5週	第7課何がおいしいですか, ポイント2	~が好きですか	
		6週	第8課週末に何をしますか, ポイント1	「」体②~です, ~ます	
		7週	第8課週末に何をしますか, ポイント2	助詞②~に, ~で, ~も, ~と	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却, 解答説明, 復習		
		10週	第9課趣味は何ですか, ポイント1	長い否定・~ないです。	
		11週	第9課趣味は何ですか, ポイント2	可能否定・~できません。	
		12週	第10課どこへ行きたいですか, ポイント1	願望・~したいです。	
		13週	第10課どこへ行きたいですか, ポイント2	短い否定・~ないです。	
		14週	総復習		
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却, 解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前1,前5
-------	------	---------------------------------	---------------------------------	--	---	-------

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学		
科目基礎情報							
科目番号	0012	科目区分	一般 / 選択必修				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1				
開設学科	一般科目	対象学年	5				
開設期	後期	週時間数	2				
教科書/教材	なし						
担当教員	木原 滋哉, 奥田 秀巳						
到達目標							
1. 哲学の基本的な問題の理解 2. 哲学の応用的な問題の理解 3. 「知る」「為す」「信じる」ということについての問題に挑戦することを通じた、「哲学する」ことの実践 4. 表現能力と共感能力の涵養							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	哲学の応用的な問題が理解できる	哲学の基本的な問題が理解できる	哲学の基本的な問題が理解できない				
評価項目2	「哲学する」ことの実践ができる	「哲学する」ことの実践がある程度できる	「哲学する」ことの実践ができない				
評価項目3	表現能力と共感能力を養える	表現能力と共感能力をある程度養える	表現能力と共感能力を養えない				
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	哲学者の思想を学ぶことを通じて、哲学の基礎概念を学ぶとともに、「哲学的に考える」姿勢を学ぶ。他者と共生する上で必要な己の表現能力および共感能力を養う						
授業の進め方・方法	講義 (適宜資料を配布する)						
注意点	哲学は、誰から「教わる」ものでもなく、自ら「考える」ことによって学ぶ学問です。ただ知識を詰め込むのではなく、自ら考えて学ぶ過程そのものが哲学なのです。時には周りの人と相談しながら、授業中に挙げられた問題について考えてみてください。皆さんが積極的に「哲学する」ことを期待します。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	哲学とは何か (1)	哲学を学ぶ意味を理解する			
		2週	哲学とは何か (2)	私たちの生活における哲学的思考の重要性を理解する			
		3週	私は何を知りうるか (1)	ソクラテスの「無知の知」を理解する			
		4週	私は何を知りうるか (2)	デカルトの「方法的懐疑」を理解する			
		5週	私は何を知りうるか (3)	ヒュームの認識論を理解する			
		6週	私は何を知りうるか (4)	カントの認識論を理解する			
		7週	中間試験				
	4thQ	8週	私は何をなすべきか (1)	カントの道徳哲学を理解する			
		9週	私は何をなすべきか (2)	功利主義の思想を理解する			
		10週	私は何をなすべきか (3)	アリストテレスの徳論を理解する			
		11週	私は何を望みうるか (1)	パスカルの「賭け」の考えを理解する			
		12週	私は何を望みうるか (2)	われわれの日常的な態度としての「信じる」態度を理解する			
		13週	私は何を望みうるか (3)	和辻哲郎の信頼論を理解する			
		14週	人間とは何か	これまでの学習をもとにして「人間とは何か」という問いに挑戦し、自らの考えを持つことができる			
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	2	後3,後4,後5,後6	
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	2	後10,後14	
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	2	後13	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ライフサイエンス・アースサイエンスA
科目基礎情報					
科目番号	0013	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	芦田嘉之著「カラー図解でわかる高校生物超入門」(SBクリエイティブ), 西村祐二郎・杉山直監修「四訂版 スクエア最新図説地学」(第一学習社)				
担当教員	森 貞雄, 芦田 嘉之				
到達目標					
1 地球環境と生命科学の基礎 2 地球の歴史と生物進化の基礎 3 生態系と地球環境の理解 4 現代社会における生物と地学の理解					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	地球環境と生命科学の基礎について詳細に理解できる	地球環境と生命科学の基礎について理解できる	地球環境と生命科学の基礎について理解できない		
評価項目2	地球の歴史と生物進化の基礎について詳細に理解できる	地球の歴史と生物進化の基礎について理解できる	地球の歴史と生物進化の基礎について理解できない		
評価項目3	生態系と地球環境を詳細に理解できる	生態系と地球環境の理解ができる	生態系と地球環境の理解ができない		
評価項目4	現代社会における生物と地学を詳細に理解できる	現代社会における生物と地学の理解ができる	現代社会における生物と地学の理解ができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HB)					
教育方法等					
概要	ライフサイエンス・アースサイエンスでは、生物を中心とした地球環境を理解し、人間と自然との関係を統合的に考える力を養うことを目標とする。これらの知識を得る過程で、科学的な考え方や人間社会を快適にする技術への応用について考え、自らの専門分野に関係する課題に対処できるようにする。				
授業の進め方・方法	PowerPointを使った講義中心。課題は配付した課題用ノートで毎回提出。				
注意点	担当教員は非常勤講師のため、授業の前後しかいない。質問等は電子メールで受け付ける。事前に連絡してから研究室へ来てもらいたい(広島大学大学院理学研究科数理分子生命理学専攻生物化学研究室)。私設図書室(蔵書1.4万冊超)も歓迎。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業計画と授業概要 宇宙と地球	46億年規模で地球環境と生物多様性を考える	
		2週	生物の共通性と多様性の基礎	DNA、タンパク質、細胞、代謝、自己複製	
		3週	生命の起源と生物進化	種とは何か 化学進化 遺伝子頻度の変化 自然選択	
		4週	地球の歴史 プレートテクトニクス	地球の起原と地球の構造 プルームテクトニクス	
		5週	火山と地震の理解	マグマの生成と断層	
		6週	地球46億年の歴史 課題解説	地球上で多様な生物がどのようにして生じたのか?	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明 システム論	システム(系)とは何だろうか?	
	2ndQ	9週	生態系とバイオーム	システムとしての生態系とバイオーム	
		10週	生物圏の物質の循環とエネルギー収支	地球のエネルギー収支	
		11週	大気圏と海洋圏の理解	地球システムで気象と気候を考える	
		12週	地球温暖化問題とは何か	地球温暖化は何が問題なのか?	
		13週	ヒトのシステム	科学的に考えるととは?	
		14週	全体のまとめと課題解説	バイオテクノロジー、生命科学と医療、食料	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	ライフサイエンス/アースサイエンス	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。	3	前1,前6
			地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。	3	前1,前11
			陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。	3	前4
			地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。	3	前4
			マグマの生成と火山活動を説明できる。	3	前5
			地震の発生と断層運動について説明できる。	3	前5
			地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。	3	前4
			プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。	3	前5
			地球上の生物の多様性について説明できる。	3	前1,前2,前3
生物の共通性と進化の関係について説明できる。	3	前3			

			生物に共通する性質について説明できる。	3	前2,前3
			大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。	3	前11
			大気の大気収支を理解し、大気の大気運動を説明できる。	3	前10
			大気の大気循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。	3	前11
			海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。	3	前11
			森林の階層構造を理解し、森林・草原・荒原の違いについて理解している。	3	前9
			植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。	3	前9
			世界のバイオームとその分布について説明できる。	3	前9
			日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。	3	前9
			生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。	3	前9
			生態ピラミッドについて説明できる。	3	
			生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。	3	前10
			熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。	3	前12
			有害物質の生物濃縮について説明できる。	3	前13
			地球温暖化の問題点、原因と対策について説明できる。	3	前12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健・体育	
科目基礎情報						
科目番号	0014		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般科目		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	なし					
担当教員	佐賀野 健,丸山 啓史					
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の体力レベルを把握できる。 2. ゴルフを行う上でのエチケットやマナーを理解できる。 3. ピッチングの基本的な打ち方ができる。 4. 方向・距離感覚を修得し、ある程度狙ったところに打つことができる。 5. バドミントンの基礎技能をゲームで生かすことができる。 6. バドミントン (ダブルス) の集団的技能をゲームで生かすことができる。 7. バドミントンのゲームを企画・運営ができる。 						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自分の体力レベルを適切に把握できる		自分の体力レベルを把握できる		自分の体力レベルを把握できない	
評価項目2	ゴルフの技能を生かすことが適切にできる		ゴルフの技能を生かすことができる		ゴルフの技能を生かすことができない	
評価項目3	バドミントンの技能をゲームで生かすことが適切にできる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)						
教育方法等						
概要	新体カテストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。生涯にわたってスポーツを親しむという観点からゴルフ、バドミントン学習する。基本的な個人技能を高めるとともに、効果的な練習方法、エチケットマナー、ゲームの企画や運営方法、審判法などを理解させる。					
授業の進め方・方法	基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。					
注意点	学校指定の体操服及び体育館シューズを着用すること。体力づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。					
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	球技大会の種目	4. 球技大会種目の練習		
		2週	球技大会の種目			
		3週	バスケットボール	5バスケットボール バスケットボールの技術・ルール理解と審判法の説明 個人技能の修得 集団技能の修得 ゲーム		
		4週	バスケットボール			
		5週	バスケットボール			
		6週	バスケットボール			
		7週	バスケットボール			
	4thQ	8週	バスケットボール			
		9週	バスケットボール			
		10週	バスケットボール			
		11週	バスケットボール			
		12週	バスケットボール			
		13週	バスケットボール			
		14週	バスケットボール・スキルテスト			
		15週	バスケットボール・スキルテスト	6. 持久走 長距離走の練習		
16週	バスケットボール・スキルテスト					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2	前4,前9,後1,後3
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	2	前4,前9,後1,後3
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	前4,前9,後1,後3

			先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
			目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	前4,前9,後1,後3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	インキュベーションワーク
科目基礎情報					
科目番号	0015	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	自作プリント等				
担当教員	林 和彦				
到達目標					
<p>1. 1年生においては、高専で学ぶ専門科目の概要を把握し、確固とした目標を持ち、技術者像を明確にイメージする。</p> <p>2. コミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力について、2年生においては認識し、3年生においては理解し、4,5年生においては活用することができる。</p> <p>3. 主体性、自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップ、倫理観（独創性の尊重、公共心）、未来志向性、キャリアデザイン力について、2年生においてはその必要性を認識し、3年生においては理解し、4,5年生においては必要に応じて発揮できる。</p> <p>4. 創生能力やエンジニアリングデザイン能力を2年生においては認識し、3年生においては理解し、4,5年生においては活用することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力について認識、理解、活用が適切にできる	コミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力について認識、理解、活用ができる。	コミュニケーションスキル、合意形成、情報収集・活用・発信力、課題発見、論理的思考力について認識、理解、活用ができない		
評価項目2	主体性、自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップ、倫理観（独創性の尊重、公共心）、未来志向性、キャリアデザイン力について、認識、理解、活用が適切にできる	主体性、自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップ、倫理観（独創性の尊重、公共心）、未来志向性、キャリアデザイン力について、認識、理解、活用ができる	主体性、自己管理能力、責任感、チームワーク力、リーダーシップ、倫理観（独創性の尊重、公共心）、未来志向性、キャリアデザイン力について、認識、理解、活用ができない		
評価項目3	創生能力やエンジニアリング能力を認識、理解、活用が適切にできる	創生能力やエンジニアリング能力を認識、理解、活用ができる	創生能力やエンジニアリング能力を認識、理解、活用ができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HD)					
教育方法等					
概要	学生がプロジェクトテーマを設定し、メンバーを募集して、組織を立ち上げ、活動計画を立案して、実行できるようにすることを目標とする。学年及び学科の異なる学生同士でチームを組んで、技術者が備えるべき分野横断的な能力を養う。				
授業の進め方・方法	演習、実習、グループワーク、講義				
注意点	在学期間中に同じテーマは最長で2年間まで選択できますが、可能な限り多くのテーマに取り組む方が学習効果が上がります。また、テーマによっては1回だけ選択できるテーマもありますので、担当教員に確認して下さい。テーマ内容については、担当教員に授業後等の時間を利用して良く確認して下さい。（※）テーマによっては、中間試験および期末試験および学年末試験を行う。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	全体ワークによって、主体的に活動あうる態度と志向性を醸成する。	
		2週	全体ワークショップ	全体ワークによって、主体的に活動あうる態度と志向性を醸成する。	
		3週	全体ワークショップ	全体ワークによって、主体的に活動あうる態度と志向性を醸成する。	
		4週	チーム編成、個別ガイダンス	各テーマごとに分かれて、課題設定と課題解決プロセスを理解する。	
		5週	調査活動・実践活動／講習	調査活動において課題を設定し、課題解決について立案し、実行計画を立てる。	
		6週	調査活動・実践活動／講習	調査活動において課題を設定し、課題解決について立案し、実行計画を立てる。	
		7週	調査活動・実践活動／講習	調査活動において課題を設定し、課題解決について立案し、実行計画を立てる。	
		8週	調査活動・実践活動／講習	調査活動において課題を設定し、課題解決について立案し、実行計画を立てる。	
	2ndQ	9週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。	
		10週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。	
		11週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。	
		12週	発表準備	発表準備	
		13週	発表会	発表	
		14週	レポート作成と活動内容の振り返り	レポート作成：発表会后、活動成果としてレポートを作成する。	

		15週	期末試験（※）	
		16週	レポート提出と後期の活動のための計画立案	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
後期	3rdQ	1週	活動内容の目標の確認	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		2週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		3週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		4週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		5週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		6週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		7週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		8週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
	4thQ	9週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		10週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		11週	調査活動・実践活動／講習	課題解決のために、計画に基づいて実践活動を行う。つねに振り返りを行い、計画と活動実績との差異を見つけるなど、検討活動を行う。また、必要に応じて外部評価を受ける。
		12週	発表準備	発表準備
		13週	発表会	発表
		14週	振り返りとレポート作成	レポート作成：後期は1年間の活動内容を総括してレポートを作成する。
		15週	学年末試験（※）	
		16週	レポート提出	

モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。 実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	2 2		
		グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2		
		PBL教育	PBL教育	工学が関わっている数々の事象について、自らの専門知識を駆使して、情報を収集することができる。 集められた情報をもとに、状況を適確に分析することができる。 与えられた目標を達成するための解決方法を考えることができる。 状況分析の結果、問題（課題）を明確化することができる。 各種の発想法や計画立案手法を用いると、課題解決の際、効率的、合理的にプロジェクトを進めることができることを知っている。 各種の発想法、計画立案手法を用い、より効率的、合理的にプロジェクトを進めることができる。	2 2 2 2 2	
専門的能力	専門的能力の実質化	共同教育	共同教育	クライアント（企業及び社会）の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	2	

				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	2		
				品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる。	2		
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	2		
				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	2		
				問題解決のために、最適なチームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる。	2		
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	2		
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	2		
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	2		
				企業人としても成長していく自分を意識し、継続的な自己研さんや学習が必要であることを理解できる。	2		
				相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	2		
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	2		
				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	2		
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	2		
				ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	2		
				ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	2		
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	2		
				現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	2		
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	2		
				複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	2		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	2		
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	2		
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	2		
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	2		
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	2		
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	2		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	2	
					組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	
					先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	2	
					目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	
					法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分に関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	2	

				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	2	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会的な在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	2	
				技術の発展と持続的社会的な在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	2	
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	2	
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	2	
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。	2	
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しデザインすることができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	40	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	20	30	0	50
分野横断的能力	0	0	0	20	30	0	50

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語
科目基礎情報					
科目番号	0016	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	長尾和夫『しゃべって身につく英会話スキット・トレーニング160』（三修社）				
担当教員	富村 憲貴				
到達目標					
1. テキストで扱われる英語表現を理解できること 2. 実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を使えること 3. 自分の考えや感情を英語で表現できること					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	テキストで扱われる英語表現を正確に理解できる	テキストで扱われる英語表現を理解できる	テキストで扱われる英語表現を理解できない		
評価項目2	実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を適切に使える	実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を使える	実際の、あるいは模擬的な状況に応じて学習した表現を使えない		
評価項目3	自分の考えや感情を英語で適切に表現できる	自分の考えや感情を英語で表現できる	自分の考えや感情を英語で表現できない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	これまでに学習した英語の文法、語彙等をアクティベートするため、演劇等のパフォーマンス活動を通して、社会の様々な場面で英語を用いる訓練を行う。本授業は就職と進学に関連し、コミュニケーション力を高めることができる。				
授業の進め方・方法	演習を基本とする。				
注意点	授業にはテキスト・辞書を必ず持参すること。学生諸君が英語を使う時間が多く取られるので、積極的に取り組み、疑問点は遠慮無く質問するよう期待する。 【カリキュラムの中での位置づけ】 1～4学年の英語関連科目で学んだ内容および技能を基礎に、さらに英語力を伸ばすための科目。 【先行して理解する必要のある科目】 コミュニケーション英語I, II, 英語表現I, II, 英語 (4年選択科目) 【同時に学ぶ科目】 なし 【ESDとの関連 (教育目標)】 (ESD1) テキストの演習を通して、英語でのコミュニケーション能力を高めることで、他文化の人々と協力して行動するための素養を身につける。 【評価方法と基準】 JABEE合格基準: 60%以上 前期中間試験17.5%+前期期末試験17.5%+後期中間試験17.5%+後期期末試験17.5%+小テスト30%=100%(100点) 60%以上を合格とする。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	概要説明			
	2週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動1	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	3週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動2	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	4週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動3	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	5週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動4	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	6週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動5	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	7週	中間試験			
	8週	答案返却・解答説明			
	9週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動6	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	10週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動7	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	11週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動8	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		
	12週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動9	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現		

		13週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動10	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		14週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動11	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		15週	期末試験	
		16週	答案返却・解答説明	
後期	3rdQ	1週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動12	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		2週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動13	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		3週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動14	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		4週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動15	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		5週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動16	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		6週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動17	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		7週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動18	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動19	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		10週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動20	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		11週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動21	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		12週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動22	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		13週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動23	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		14週	スキットトレーニング・パフォーマンス活動24	テキスト各課の語彙・文法の理解 テキスト各課のスキットパフォーマンス パフォーマンス活動による自己表現
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	英語のつづりと音との関係を理解できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の標準的な発音を聴き、音を模倣しながら発音できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				英語の発音記号を見て、発音できる。	2	

			リエゾンなど、語と語の連結による音変化を認識できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			語・句・文における基本的な強勢を正しく理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			文における基本的なイントネーションを正しく理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			文における基本的な区切りを理解し、音読することができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			中学で既習の1200語程度の語彙を定着させるとともに、2600語程度の語彙を新たに習得する。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			自分の専門に関する基本的な語彙を習得する。	2	
			中学校で既習の文法事項や構文を定着させる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14

				日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			英語運用能力の基礎固め	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	
				毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				自分や身近なことについて100語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				毎分120語程度の速度で物語文や説明文などを読み、その概要を把握できる。	2	
				自分や身近なこと及び自分の専門に関する情報や考えについて、200語程度の簡単な文章を書くことができる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ドイツ語
科目基礎情報					
科目番号	0017		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	_一般科目		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	齊藤公輔『どいちゅ』朝日出版社、2016年				
担当教員	蒲地 祐子,西谷 明子				
到達目標					
1. 日常で使える会話を習得する。 2. 動詞、形容詞、前置詞を適切に使うことができる。 3. 辞書を使って簡単な文章を読み、作文することができない。 4. 辞書を使って簡単な文章を読み、作文することができる。 5. 動詞の三基本形を使いこなす。 6. 中級文法を覚える。 7. 辞書を使って簡単な読み物を読み、作文することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	日常で使える会話を習得できる。	日常で使える会話がある程度習得できる。	日常で使える会話ができない。		
評価項目2	動詞、形容詞、前置詞を適切に使うことができる。	動詞、形容詞、前置詞を使うことができる。	動詞、形容詞、前置詞を使うことができない。		
評価項目3	辞書を使って簡単な文章を読み、作文することが適切にできる。	辞書を使って簡単な文章を読み、作文することができる。	辞書を使うことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	初級ドイツ語文法と簡単な日常会話を習得する。中級への架け橋となる文法事項についても学び、簡単な読み物が読めるようになる。またドイツあるいはヨーロッパの文化や歴史についても理解を深める。				
授業の進め方・方法	教科書及び付属のCDを用いた講義と、ペアワーク。				
注意点	授業には毎回必ず辞書を持参すること。授業中でも授業後でも、質問があれば受け付けます。ペアワークへの積極的な参加を求めます。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	4年時の復習、Lektion 2-F	3・4格目的語の用法の復習	
		2週	Lektion 3-A 会話	分離動詞の使い方が理解できる	
		3週	Lektion 3-A 練習	場所を表す前置詞の使い方が理解できる	
		4週	Lektion 3-B 会話・練習	話法の助動詞 können を使った会話ができる	
		5週	Lektion 3-E 会話	4格支配の前置詞の使い方が理解できる、Sieに対する命令形を作文できる	
		6週	Lektion 3-E 練習	道案内の会話ができる	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明		
	2ndQ	9週	Lektion 3-F 会話・練習	話法の助動詞 wollen を使った会話ができる	
		10週	Lektion 6-A 会話・練習	非人称の es、2格支配の前置詞の使い方が理解できる	
		11週	Lektion 6-C 会話	話法の助動詞 müssen、再帰動詞・再帰代名詞の使い方が理解できる	
		12週	Lektion 6-C 練習	興味のあることについて質問できる	
		13週	Lektion 6-D 会話	過去人称変化が理解できる	
		14週	Lektion 6-D 練習	過去時制を使った会話ができる	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	前期の復習、Lektion 6-E	現在完了形 (haben 支配) が理解できる	
		2週	Lektion 6-E 会話	現在完了形を使った会話ができる	
		3週	Lektion 6-F 会話	現在完了形 (sein 支配) が理解できる	
		4週	Lektion 6-F 練習	昨日のことについて会話できる	
		5週	現在完了形の復習	ドイツ語の時制の基礎が理解できる	
		6週	Lektion 5-A 会話	形容詞の語尾変化について理解できる、ドイツの祭りについて知識を深める	
		7週	Lektion 5-A 練習	色についての会話ができる	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答説明		
		10週	Lektion 5-B 会話	比較級について理解できる	
		11週	Lektion 5-B 練習	比較級を使った会話ができる	
		12週	Lektion 5-D 会話	最上級について理解できる、ドイツの祭りについて知識を深める	
		13週	Lektion 5-D 練習	最上級を使った会話ができる	

	14週	まとめと復習	年中行事や暦についてドイツ語で紹介できる
	15週	期末試験	
	16週	答案返却・解答説明	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解 世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	前2

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	中国語
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	一般 / 選択必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般科目		対象学年	5	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	李志華・文南 著『友子の北京ライフ』 白帝社				
担当教員	蒲地 祐子, 范 叔如, 劉 鳴, 羅 穎, 張 愛花				
到達目標					
<p>1. 4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げます。</p> <p>2. 中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解を深めます。</p> <p>3. 練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めます。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げることが適切にできる	4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げることができる	4年生で“学習した日常会話を復習しながら、さらに応用表現を習得することで”、会話の幅を広げることができない		
評価項目2	中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解を深めることができる	中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解ができる	中国のテレビ番組や映画を通して、様々な話題を取り上げ、中国の社会や文化についての理解できない		
評価項目3	練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることが適切にできる	練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることができる	練習問題を解きながら、中国語の読解力・聴力を高めることができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	この授業では、基礎となる中国語の文法・会話表現を復習しながら、より高度な表現を習得することで、ある程度の実力をつけることを目標にします。				
授業の進め方・方法	発音方法、文型模倣練習法、模倣記憶返復法などを必要に合わせて応用する。				
注意点	試験前にまとめて勉強するのではなく、普段の授業を大切に、しっかり知識の基盤を築くことを期待する。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第9課	月、日、曜日の言い方、名詞述語文	
		2週	第9課	経験を表す“過”	
		3週	第9課	動作の状態の程度を表す“得”と“是～的”	
		4週	第9課	「聞く、書く、話す」と本文	
		5週	第10課	時を表す語②と“快～了”	
		6週	復習		
		7週	中間試験		
		8週	第10課	動詞の重ね型と持続を表す	
	2ndQ	9週	第10課	「聞く、書く、話す」と本文	
		10週	第11課	助動詞“会”、“能”、“可以”	
		11週	第11課	2つ目的語をもつ動詞	
		12週	第11課	結果補語	
		13週	第11課	「聞く、書く、話す」と本文	
		14週	復習		
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	第12課	可能補語“得”	
		2週	第12課	方向補語／助動詞“得”	
		3週	第12課	動詞(句)を目的語にとる動詞	
		4週	第12課	「聞く、書く、話す」と本文	
		5週	第13課	量詞／比較の表現“比”	
		6週	復習		
		7週	中間試験		
		8週	第13課	離合動詞／副詞“又～又～”	
	4thQ	9週	第13課	「聞く、書く、話す」と本文	
		10週	第14課	“了”1+“了”2構文	
		11週	第14課	使役文	
		12週	第14課	受身文型	
		13週	第14課	「聞く、書く、話す」と本文 時刻などの表現	
		14週	復習		
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却・解答説明		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	

評価割合

	試験	課題	授業参加度	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	10	10	0	0	0	100
基礎的能力	80	10	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	ハングル
科目基礎情報					
科目番号	0019	科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般科目	対象学年	5		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	朴大王・李賛任(共著)『韓国語入門』白帝社、木内明著『基礎から学ぶ韓国語講座(初級)改訂版』国書刊行会				
担当教員	蒲地 祐子, 李 政樹				
到達目標					
1. 動詞・形容詞等の活用ができる。 2. 簡単な作文ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	動詞・形容詞等の活用が適切にできる	動詞・形容詞等の活用ができる	動詞・形容詞等の活用ができない		
評価項目2	簡単な作文が適切にできる	簡単な作文ができる	簡単な作文ができない		
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)					
教育方法等					
概要	1年間学習した者を対象にする。2年間の学習でハングル能力検定試験5級の合格程度の力をつける。				
授業の進め方・方法	講義を基本とする				
注意点	欠席の場合は後日の授業に多大な支障が生じるため、欠席は絶対にしないこと。				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第1課～第3課の復習、第11課 いくらですか	ポイント1 変則	
		2週	第4課・第5課の復習、第11課 いくらですか	ポイント2 漢数詞、活用練習、応用表現	
		3週	第6課・第7課の復習、第12課 明日は時間ありますか	ポイント1 勧誘表現	
		4週	第8課・第9課復習、第12課 明日は時間ありますか	ポイント2 固有数詞、活用練習、応用表現	
		5週	第10課の復習・第13課 何歳ですか	ポイント1 疑問詞	
		6週	第13課 何歳ですか	ポイント2 自己紹介、活用練習、応用表現、11課～13課のまとめ	
		7週	中間試験		
		8週	答案返却・解答説明・復習		
	2ndQ	9週	第14課 コンサートに行ったことがありますか	ポイント1 経験の表現	
		10週	第14課 コンサートに行ったことがありますか	ポイント2 否定形、活用練習、応用表現	
		11週	第15課 どうやって行きますか	ポイント1 仮定・条件の表現	
		12週	第15課 どうやって行きますか	ポイント2 助詞③、活用練習、応用表現	
		13週	第16課 2人前ください	ポイント1 尊敬の表現	
		14週	第16課 2人前ください	ポイント2 理由の表現、活用練習、応用表現、14課～16課のまとめ	
		15週	期末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
後期	3rdQ	1週	第17課 トイレはどこですか	ポイント1 位置名詞	
		2週	第17課 トイレはどこですか	ポイント2 企業名、活用練習、応用表現	
		3週	まとめ	様々な発音の変化など	
		4週	『基礎から学ぶ韓国語講座(初級)改訂版』第1課 私は浅井ゆかりです	自己紹介	
		5週	第2課 出身はソウルですか	出身を聞く	
		6週	第3課 図書館ではありません	場所を聞く	
		7週	第4課 時間がありますか	時間の都合を聞く、1課～4課のまとめ	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	答案返却・解答説明・復習		
		10週	第5課 ネットカフェでパソコンをします	します/しますか	
		11週	第6課 貿易会社で働いています	もう一つの言い方の学習	
		12週	第7課 東大門市場に行きます	動詞の学習	
		13週	第8課 しょっちゅうスーパーで買います	もう一つの言い方の用言の学習	
		14週	復習	5課～8課のまとめ	
		15週	学年末試験		
		16週	答案返却・解答説明		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	工学基礎	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバル ゼーション ・異文化多 文化理解	世界の歴史、交通・通信の発達から生じる地域間の経済、文化、政治、社会問題を理解し、技術者として、それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた、経済的、社会的、環境的な進歩に貢献する資質を持ち、将来技術者の役割、責任と行動について考えることができる。	2	
-------	------	---------------------------------	---------------------------------	--	---	--

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語・日本事情		
科目基礎情報							
科目番号	0020		科目区分	一般 / 選択必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	一般科目		対象学年	5			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	日本語能力試験問題集, 日本留学試験対策記述問題テーマ100, 留学生の日本語(論文読解編), 日本を話そう他						
担当教員	森 貞雄, 帖佐 幸樹						
到達目標							
1. 日本語能力試験のN1～N2程度の能力(読む・書く・聞く・話す)を身につける 2. 日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 理解を深める 3. 専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力を高める。 4. 一般的な小論文が書けるよう, 作文能力を伸ばす。 5. 文集「随想」の作成を通じて, 正しく理論的な文章を書く力, 編集能力を養う。 6. 日本語能力試験受験を積極的に勧め, 合格へ導く。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 詳細に理解できる		日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 理解できる		日本社会, 文化, 生活について, 座学及びフィールドワークを通じて, 理解できない		
評価項目2	専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力をより高めることができる。		専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力を高めることができる。		専門科目にも応用できる幅広い視野, 知識を持てるよう, 日本語を通じて学習能力を高めることができない		
評価項目3	正しく理論的な文章を書く力, 編集能力を身につけることができる		正しく理論的な文章を書く力, 編集能力がある程度身につけることができる		正しく理論的な文章を書く力, 編集能力を身につけることができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA)							
教育方法等							
概要	一般的な日本語運用能力の習得, 向上, 更に専門科目を学習するために必要なより高度な読む・書く・聞く・話すの総合的な力を養う。特に大学進学, 就職に必須な論文作成能力を養う。						
授業の進め方・方法	講義, レポート, 作文, 現地訪問						
注意点	特になし						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	問題集例題を解く	日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解			
		2週	問題集例題を解く	日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解			
		3週	問題集例題を解く	日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解			
		4週	問題集例題を解く	日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解			
		5週	問題集例題を解く	日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解			
		6週	問題集例題を解く	日本語能力試験問題集, 漢字・語彙・読解			
		7週	中間試験				
	2ndQ	8週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題			
		9週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題			
		10週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題			
		11週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/過去の試験問題			
		12週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/公式問題集			
		13週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/公式問題集			
		14週	問題集例題を解く, 過去の試験問題を解く	日本語能力試験問題集, 文法・聴解/模擬試験問題			
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
基礎的能力	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	世界の歴史, 交通・通信の発達から生じる地域間の経済, 文化, 政治, 社会問題を理解し, 技術者として, それぞれの国や地域の持続的発展を視野においた, 経済的, 社会的, 環境的な進歩に貢献する資質を持ち, 将来技術者の役割, 責任と行動について考えることができる。	2	後16		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0